

事例番号:290044

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第二部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 28 週 6 日 切迫早産の診断で A 搬送元医療機関から B 搬送元医療機関へ母体搬送

高位破水の診断で B 搬送元医療機関から当該分娩機関へ母体搬送され入院

#### 3) 分娩のための入院時の状況

管理入院中

#### 4) 分娩経過

妊娠 29 週 4 日

8:00 陣痛開始

9:37- 高度変動一過性徐脈

11:41 経膈分娩

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:29 週 4 日

(2) 出生時体重:1204g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.302、PCO<sub>2</sub> 50.2mmHg、PO<sub>2</sub> 22.0mmHg、  
HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 25.0mmol/L、BE -1.4mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 2 点、生後 5 分 6 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)、気管挿管

(6) 診断等:

出生当日 早産、極低出生体重児

生後4日 代謝性アシドーシス

(7) 頭部画像所見:

生後2ヶ月 頭部MRIで、左側脳室拡大、周囲の白質減少を認める

6) 診療体制等に関する情報

〈A 搬送元医療機関〉

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医1名

看護スタッフ:看護師1名

〈B 搬送元医療機関〉

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医1名

看護スタッフ:助産師4名

〈当該分娩機関〉

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医2名、小児科医1名

看護スタッフ:助産師1名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、未熟性を背景に、成熟児であれば耐えうる出生前後の小さな循環動態の変動による脳の虚血(血流量の減少)が生じたことにより脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したことであると考えられるが、その循環動態の変動がどのように生じたかを解明することは困難である。

(2) PVLの発症には、高サイトカイン血症の関与が考えられるが、具体的にどの程度関与したかを解明することは困難である。

### 3. 臨床経過に関する医学的評価

#### 1) 妊娠経過

##### (1) A 搬送元医療機関

- ア. 妊娠 28 週 4 日までの外来での管理は一般的である。
- イ. 妊娠 28 週 5 日妊産婦が腹部緊満感を自覚し来院した際、子宮収縮抑制薬を処方し 1 週間後の受診を指示したことは選択されることの少ない対応である。
- ウ. 妊娠 28 週 6 日、粘性血液付着あり受診した際の対応、(内診、分娩監視装置装着、子宮収縮抑制薬投与開始、切迫早産と診断し、B 搬送元医療機関へ母体搬送したこと)は一般的である。

##### (2) B 搬送元医療機関

妊娠 28 週 6 日、入院後の対応(診察、超音波断層法、前期破水と診断し当該分娩機関へ母体搬送したこと)は一般的である。

##### (3) 当該分娩機関

- ア. 入院後の管理(前期破水の診断で抗菌薬投与、子宮収縮抑制薬投与等)は一般的である。
- イ. 妊娠 28 週 6 日にベクタゾリン酸エステルナトリウムの筋肉内投与を行ったことは医学的妥当性がある。

#### 2) 分娩経過

- (1) 妊娠 29 週 4 日陣痛発来し、子宮収縮抑制薬を増量するも、子宮口が開大したため子宮収縮抑制薬を終了し、経膈分娩としたことは選択肢のひとつである。
- (2) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。
- (3) 胎盤病理組織学検査を行ったことは適確である。

#### 3) 新生児経過

新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸、気管挿管)、その後の管理は一般的である。

#### 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

##### 1) A 搬送元医療機関、B 搬送元医療機関および当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

###### (1) A 搬送元医療機関

切迫早産の管理については、妊産婦の診察所見に応じ、より慎重な対応をすることが望まれる。

###### (2) B 搬送元医療機関

なし。

###### (3) 当該分娩機関

なし。

##### 2) A 搬送元医療機関、B 搬送元医療機関および当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

###### (1) A 搬送元医療機関

なし。

###### (2) B 搬送元医療機関

なし。

###### (3) 当該分娩機関

なし。

##### 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

###### (1) 学会・職能団体に対して

早産期の脳性麻痺発症の原因や病態生理に関して、更なる研究の推進が望まれる。

###### (2) 国・地方自治体に対して

なし。